

# I 類

# 土木造園(造園)専門問題

令和2年度施行 特別区職員 I類採用試験

指示があるまで開いてはいけません。

## 注 意

- 1 問題は、〔問題1〕から〔問題6〕まで6題あり、このうち4題を任意に選択して解答してください。4題を超えて解答した場合は、〔問題1〕以降解答数が4に達したところで採点を終了し、4を超えた分については採点しないので、注意してください。
- 2 解答は解答用紙に記入してください。問題に記入しても採点しません。
- 3 解答時間は1時間30分です。
- 4 問題の内容に関する質問には、一切お答えしません。
- 5 問題は持ち帰ってください。

特別区人事委員会

## 〔土木造園(造園) 問題1〕

次の問(1)、(2)に答えよ。

- (1) 次の文は、夢窓疎石に関する記述であるが、文中の空所A～Dに該当する語を解答欄に記入せよ。

夢窓疎石は、鎌倉時代末期から南北朝時代にかけての  宗の僧である。疎石は、自然の一部の景色をいくつかずつ組み合わせ、全体として一つのまとまった構図に仕上げる  の考え方を作庭に取り入れ、庭園の縮景法に画期的な変化をもたらした。苔寺の名で知られる京都の  の庭園や、後醍醐天皇の冥福を祈って足利尊氏らが建立した  の庭園は、疎石の代表作とされる。

- (2) イタリア式庭園における次の①～③について説明せよ。

- ① ベルヴェデーレ
- ② ボスコ
- ③ グロット

## 〔土木造園(造園) 問題2〕

次の問(1)～(3)に答えよ。

(1) 次の①～④は、公園の分類、都市公園の種類又は種別に関する記述であるが、文中の空所A～Dに該当する語を解答欄に記入せよ。

- ①  公園は、国又は地方公共団体が一定区域内の土地の権原に関係なく、その区域を公園として指定し、土地利用の制限や一定の行為の禁止又は制限等によって自然景観を保全することを主な目的とした公園で、自然公園法に基づく自然公園が代表的なものである。
- ②  公園は、都市住民全般の総合的な利用に供することを目的とする総合公園と、主に運動の利用に供することを目的とする運動公園に区分される。
- ③  公園は、主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で、1箇所当たり面積4haを標準として配置される。
- ④  緑地は、大気汚染、騒音、振動等の公害の防止と緩和や、コンビナート地帯等の災害の防止を図ることを目的とする緑地で、公害等の発生源地域と住居地域等とを分離遮断することが必要な位置に配置される。

(2) 緑地の利用効果を3つ挙げよ。

(3) 公園における遊具の安全確保に関する次の①、②について答えよ。

- ① 遊具の配置について、設置面への配慮を含めて説明せよ。
- ② 日常点検における留意点を述べよ。

## 〔土木造園(造園) 問題4〕

次の問(1)～(3)に答えよ。

(1) 次の①～③は、土壤の化学性に関する記述であるが、文中の空所ア～エに該当する語を下の語群から1つずつ選び、その記号を解答欄に記入せよ。

- ① 土壤構成成分の粘土鉱物や腐植は  の電荷を帯びており、アンモニウムイオンやカリウムイオンなどの  を電氣的に引き付けて吸着、保持する。
- ② 土壤が  を吸着、保持できる最大量を  と呼び、土壤の保肥力を示す指標となっている。
- ③  に占める交換性  の割合は  と呼ばれ、土壤のpHと関係が深い。

<語群>

- A 陰イオン    B 陰イオン交換容量 (AEC)    C 塩基飽和度  
D 電気伝導度 (EC)    E プラス    F マイナス    G 陽イオン  
H 陽イオン交換容量 (CEC)

(2) 土壤における塩類集積について説明せよ。

(3) 土壤における土性について説明し、植栽に適する土性を2つ挙げよ。

## 〔土木造園(造園) 問題5〕

次の問(1)、(2)に答えよ。

(1) 次の①～③は、生態学に関する記述であるが、文中の空所A～Cに該当する語を解答欄に記入せよ。

- ① ある特定の空間を占める同一種の生物の集まりを  という。
- ② 時間と場所を共有する様々な種の  の集まりを  という。
- ③ ある環境下で  が維持できる最大の個体数を  という。

(2) 保護区の設定におけるS L O S S (single large or several small) 問題について説明せよ。

## 〔土木造園(造園) 問題6〕

次の問(1)～(3)に答えよ。

(1) 次の①～④は、植栽の支柱の種類に関する記述であるが、文中の空所ア～エに該当する語を解答欄に記入せよ。

- ①  は、支柱の中では一番簡単な方法で、唐竹や梢丸太を支柱として、幼木や樹高が低い樹木等に用いる。
- ②  は、3本の支柱で幹の高位置を支持するもので、幹周90 cm以上の樹木では4本の支柱を用いる。
- ③  は、横架材を渡し、両端・中間を斜柱で支えたもので、植え付け間隔が狭く、又はまとめて植え付けられた列植に用いる。
- ④  は、傾斜した幹や横架した大枝を支えるために用いる。

(2) 次の芝生の造成方法①、②について説明せよ。

- ① 張芝
- ② 植芝

(3) 次の図は、水準測量を行った結果を示したものであるが、図中の測点Aの地盤高が12.50 mであるとき、測点C及びEの地盤高を求めよ。

